

◆第4回 市民会議 “Mira-ton” を開催しました！

平成 29 年度からのまちづくりの指針となる「新たな総合ビジョン」の策定に向けた「市民会議“Mira-ton”」。8月21日(日)に、最終回となる第4回を開催しました。参加者は市民、大阪大谷大学の学生、市の職員、合わせて 50 人で、全4回を通してのべ 225 人の方にご参加いただくことができました。

第4回では、前回に続きまちの将来像実現に向けた具体的な「取り組みアイデア」を検討し、各班の提案を完成させました。

その後、多田市長も駆けつけた発表会では、“Mira-ton”の成果として参加者自身が発表しました。



「まちの将来像を実現するために必要な取り組みアイデアを具体的にする」

をテーマに話し合い、発表しました！

◆第4回の流れ

1 第3回で検討した「取り組み内容」や必要な「理由」を振り返り、新たなアイデアを追加しました。



2 取り組みアイデアを具体化するため、「担い手」「アピールポイント」「ゴール」を検討しました。



3 まとまった取り組みアイデアを、グループごとに全体に向けて発表しました。



多田市長のご挨拶

「これだけの市民や学生の方が参加した取り組みは本市始まって以来の試みです。市の未来を真剣に考えていただき、皆様の発表をお聞きして感動しました！ここでのご意見を総合ビジョンの策定にしっかり繋げて参りますので、今後ともまちづくりへのご協力をよろしくお願ひします。」



5 最後に市長と参加者全員で記念撮影！とっぴーも参加しました。



全8班から、あわせて19件のアイデアが生まれました！

◆発表された「取組みアイデア」

子育て・教育の取組みアイデア

●フリースタイルライブラリー ～みんなの図書館～

図書館、相談室、映画上映、カフェ、フリースペース等の機能をもった、子育て・教育の拠点となる、全世代向けのフリースタイルライブラリーをつくる

- 担い手: 民間企業、すこやかネット、意見調整役に行政
- アピールポイント: すべての市民の希望を反映させた「場づくり」を行う
- ゴール: 子育て世代が住んで良かったと思える

●大人も子どももアクティブラーニング富田林市

「英語村」(英語だけの交流の場)開設など、教育施設・制度を充実し、能動的に学べる人材を育成する

- 担い手: TSUTAYA、スターバックスなどが教育の場として協力し、図書館などと連携する
- アピールポイント: 強みを持つ子どもが増え、「教育」の安心感が高まる
- ゴール: 世界で活躍できる人材にあふれる

●はぐくめ!! 生きるチカラ

他人の家へのホームステイや子どもカフェ等、学校のカリキュラムに「生きるための教育」の時間をつくる

- 担い手: 学校の先生、子どもに教える色んな「プロ」
- アピールポイント: 市民の意見が学校教育の場に反映され、富田林ならではの教育ができるようになる
- ゴール: 「やりたいこと」をもった子どもが増える

●友達づくりができるまち富田林

全小学校で校庭を開放し、子どもがボール遊びなどを自由にできる場所を確保する

- 担い手: 子育て支援団体、主任児童委員、学校等の拠点
- アピールポイント: 未就園児の保護者や子ども達が、楽しく過ごすことができる
- ゴール: 若者・子育て世帯の流入や定住促進が図られている

健康・医療・福祉・多文化共生・人権の取組みアイデア

●健康は、市民ひとりひとりの宝物

ランニングコースの整備や富田林版スポーツ交流イベントを開催し、市民に合った健康づくりを支援する

- 担い手: 地域が場作り、行政がサービス提供
- アピールポイント: 富田林に住んでいれば健康でいられるようになる
- ゴール: 市民が自由に活動し、笑顔で暮らせる

●見つけよう! 私の生き方。ひろげよう! みんなへ。

自然を使ったスポーツイベント等、健康づくりの取組みを教え合い、高齢者の生きがいづくりや若者の地域への愛着につなげる

- 担い手: 自治会、子ども会、高齢者、若者(大学生)
- アピールポイント: 地域の自立につながる
- ゴール: 交流が活発になり、若者が誇り・愛着をもつ

●いいまち「富田林」を発信!!

市や市のキャラクターのSNSをより活発にし、野外イベントや景観などをアピールする

- 担い手: イベントを主導する市民、芸に秀でた市民
- アピールポイント: 市外の人が来るきっかけとなる
- ゴール: 10~20代がまちのにぎわいを伝え、60代以上は伝統行事や文化行事を孫たちに伝える

●Team おせっかい

地域にすべての住民が情報交換する場をつくり、孤立を防ぐなど、地域のつながりの強化を図る

- 担い手: ボランティア(性別、年代、障害も関係なし)
- アピールポイント: コミュニティの活性化、地域の情報交換が強化される
- ゴール: 隣近所の暮らしの様子を把握している

●よびませ!! 地域力!!

世代間の交流により、地域コミュニティの再構築を行い、地域力の向上を図る

- 担い手: 自治会や企画好きな人など、地域で動く
- アピールポイント: 自主的に取組める地域となれる
- ゴール: 地域参加の敷居が低いイベントや祭りで集まれる居場所となる

環境・防犯防災・交通などの取組みアイデア

●まちづくりするための環境整備

ショッピングモールの誘致や駅前の高層マンション建設、駐車場の無料化、遊歩道整備等によって、富田林市を「中継地点」から「目的地」にする手立てをうつ

- 担い手: 市が先導して場・仕組みを整備し、市民や企業が整備されたものをうまく活用する
- アピールポイント: 人が集まるまちづくりを進められる
- ゴール: 移り住みたい、住み続けたいと思えるまちになる

●安心・安全を守る市民の瞳プロジェクト

市民が道路の問題を報告・共有できるアプリを開発し、市民と行政が協力して道路環境を守る

- 担い手: 行政と市民(アプリによって分かったことは、行政と市民との協議体でしっかり協議する)
- アピールポイント: 女性や子ども、若い世代、高齢者など、全市民が一体となって「安心」分野の行政に参加できる
- ゴール: 住民の命が守られ、まちを誇ることができる

●防犯・防災につながるにぎわいの創出

だれでも参加できる交流の場などで人と人とのつながりを深め、その市民から防災の知識を学んだ防災リーダーが誕生するよう人材の育成・活用を行う

- 担い手: 市民が声をあげ、市がその声を吸い上げる
- アピールポイント: リアルな「SNS」(人と人とのつながり)を構築できる
- ゴール: 市民の声が吸い上げられ、反映されている

●温故知新プロジェクト

寺内町等の市の伝統を学びつつ、商業サービスの保全やWi-Fiの充実など、現在の生活も豊かにする

- 担い手: 自治会・子ども会(交流の場)、行政、市民
- アピールポイント: それぞれの担い手の役割は増えるが、取組みが進めば、まちづくりに参加する機会が増える
- ゴール: まちの過去を知る市民、富田林の未来を考える市民が増える

産業・経済・地域活性化の取組みアイデア

●インキュベーター富田林

託児所や送迎バスなどが整備されたコワーキングスペースをつくるなど、起業家が集まる環境をつくる

- 担い手: 大阪府、富田林市、保育・交通・商業施設
- アピールポイント: 起業と就労環境が整備される
- ゴール: 働く場所の増加が企業誘致につながり、さらに働く場所が増加するという好循環が生まれる

●ぶっ富んだプラン

「ぶっとんだ」をキーワードにイメージ戦略を図り、すだれやナス等の特産品を使ったブランド開発などを行う

- 担い手: 農業者、事業者、商店街
- アピールポイント: 富田林市の名物ができ、話題となる
- ゴール: まちの認知度が向上する

●BACK TO THE 1500

西暦1500年代からの歴史を生かし、広域的な観光振興とSNS等による情報発信を強化する

- 担い手: 近隣の市町、町会・青年団(だんじりをPR)
- アピールポイント: TV・CM・ネット動画等、市の情報発信方法が強化されていく
- ゴール: 広域で連携し、観光客が増加する

●田舎シティ推進計画

サバファームをリニューアルし、グリーンツーリズムやウィークエンド移住を企画する

- 担い手: 行政、空き家の所有者、旅行・不動産会社
- アピールポイント: 田舎に移住したいけど、ソフトな田舎がいい人に響く
- ゴール: 交流人口増加が定住人口増加につながる

●学生ざわざわ大作戦♡

富田林駅東側地区の飲食店の増加、大阪大谷大学への通学路の整備、商業施設の整備、空き店舗を活用した創業体験などに取組む

- 担い手: 学校、空き店舗の大家、地域の飲食店
- アピールポイント: 若者の声にあったまちづくりが進む
- ゴール: 『人』と『金』が集まる!

●愛着すりこみ週上計画 帰巢本能促進計画

10~30代の人に市のイベントに強制的に出演してもらい、若い市民を「シティセールスプランナー」にする

- 担い手: 教育委員会、子ども・若者(その友達も)
- アピールポイント: 子どもたちに富田林市に関わってもらい、良さを知ってもらい、愛着を高める
- ゴール: 若い人が住み続ける、戻ってくる